

レトロフィット電気バスの営業路線への導入及び実証をスタート

住友商事九州株式会社（本社：福岡県福岡市、以下「住友商事九州」）は、住友商事株式会社（以下「住友商事」）、西日本鉄道株式会社（以下「西鉄」）、西鉄バス北九州株式会社（以下「西鉄バス北九州」）と共同で、住友商事が出資する台湾最大手の電気バスメーカーRAC Electric Vehicles Inc.（以下「RAC」）の技術を活用して、既存ディーゼルバスを改造（レトロフィット）した電気バスを6月27日より西鉄バス北九州の小倉自動車営業所の営業路線に導入して実証を行います。これに先立ち、6月22日に住友商事九州は、住友商事、西鉄、西鉄バス北九州と共同で西鉄バス北九州小倉自動車営業所にて、マスコミ報道各社向けにレトロフィット電気バスのお披露目式を実施しました。

日本政府は2050年までのカーボンニュートラル化を目標と掲げる中、2021年10月に発表した地球温暖化対策計画の部門別目標では、運輸部門において2030年までに7,800万トンの二酸化炭素排出量削減が求められています（2013年度比35パーセント減）。目標の達成に向けて、バス業界においても電気バスなどの環境負荷が低い公共交通の重要性が高まっている一方、電気バスは導入コストの高さや最適な充電インフラ・運行マネジメント及び電力調達など、運用面において多くの課題が存在することから、国内での導入は限定的な状況です。

住友商事九州は、2021年10月より住友商事、西鉄と共同で博多アイランドシティを中心に電気バス2台による運行実証と最適な充電マネジメント検証を実施しました。今般、電気バス導入コストの低減を目指し、既存のディーゼルバスを電気バス専門メーカーの技術を活用して電動化改造することで、バス事業者の求める性能品質を確保しつつ、従来の電気バスよりも低価格なレトロフィット電気バスの製造に成功しました。今回の初号車は台湾で電動化改造作業を実施しましたが、今後は台湾のRACより電動化に必要な部材を輸入し、日本国内でレトロフィット電気バスの組立作業を行います。国内でのレトロフィット作業は、バスの改造、架装実績が豊富な西鉄グループの西鉄車体技術株式会社（以下「西鉄車体技術」）で実施します。当社は西鉄車体技術とRAC両社の技術を活かしながら、日本国内で安定的にレトロフィット電気バスを製造・運用できる体制を構築します。

また、今後の電気バス導入台数増加を見据え、複数の電気バスに対する最適な充電マネジメントや充電用電力への再エネ利用などの実現に向け、関係各社と共同で検証・分析を行い、日本国内での電気バス普及拡大を目指し、持続可能な公共交通の構築に貢献していきます。

(参考) 6月22日お披露目式の様子



(参考) レトロフィット電気バス概要

【車両諸元】

導入営業所	西鉄バス北九州(株)小倉自動車営業所
ベース車両	国産 大型ディーゼルバス
全長×全幅×全高	10,790 mm×2,490 mm×3,140 mm
乗車定員	67名
タイヤ	275/70R22.5 148/145J (ブリヂストン製 EV バス向け低燃費タイヤ装着)
EV 化改造事業者	台湾 RAC
駆動用バッテリー・容量	リチウムイオンバッテリー 235kWh
モーター	最大出力 252.9kW

## 【運行路線】

小倉～黒崎・折尾間（行先番号1など）を中心に運行予定

（参考）住友商事九州/住友商事/西鉄グループにおける電気バスの取り組み  
（2021年9月27日付プレスリリース）

<https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/news/release/2021/group/15110>

（参考）住友商事のマテリアリティ（重要課題）

住友商事グループは『社会とともに持続的に成長する6つのマテリアリティ（重要課題）』を事業戦略の策定や個々のビジネスの意思決定プロセスにおける重要な要素と位置づけ、事業活動を通じて課題を解決することで持続的な成長を図っていきます。本事業は特に以下のマテリアリティに資する事業です。



地球環境との共生



地域と産業の発展への貢献



快適で心躍る暮らしの基盤づくり



多様なアクセスの構築



人材育成とダイバーシティの推進



ガバナンスの充実

<本件に関する問い合わせ先>

住友商事九州株式会社 九州モビリティサービス開発事業部

担当：山本（090-6303-9581）、田村（090-4933-7786）、両角（090-9621-5492）